

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

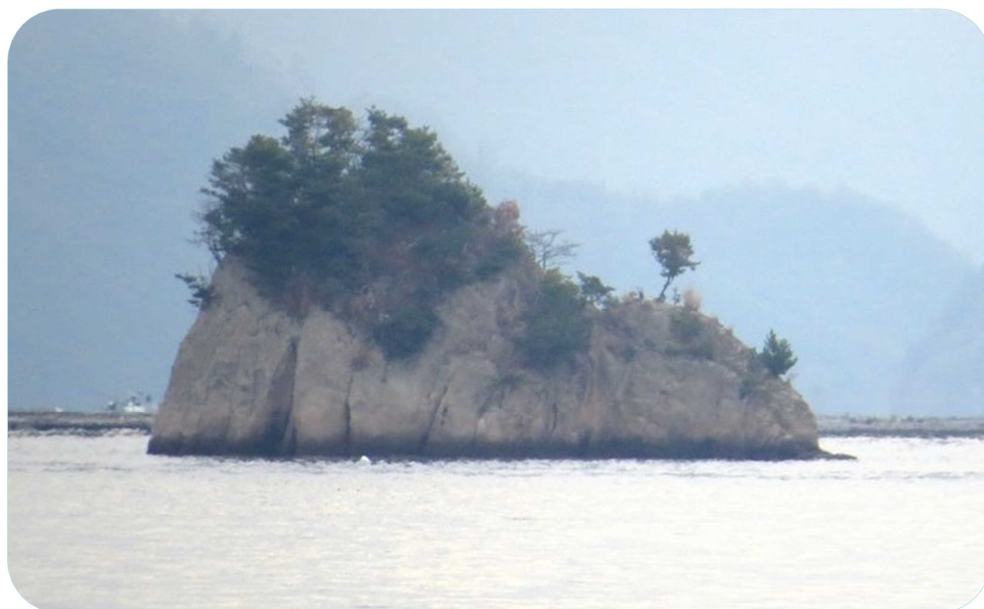
第67号

発行日
平成29年3月1日

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|-----|-------------------|------|------------------|
| P 2 | 臨時総会・部会打合せ | P 8 | 弥山登山道清掃作業 |
| P 3 | 自主研修会 | | 新春弥山登山 |
| P 4 | 新役員・幹事の抱負 | P 9 | 同上続き |
| P 5 | 公募観察会の下見 | P 10 | 自主観察会(8)野鳥観察(宮島) |
| P 6 | 自主観察会(6)島外研修(金輪島) | P 11 | ミヤジマトンボ生息地環境整備 |
| P 7 | 同上続き | | 編集後記 |

蓬 萊 岩



宮島地区 PV の会「新宮島八景」の一つ
阿品の海辺から
(写真：大西 順子 文(P5)：中道 勉)

平成 29 年度 PV の会・定期総会を下記の要領で開催
しますので、会員の皆様、多数ご出席ください

日 時 4 月 8 日(土) 9:30～12:00 (受付 9:00～)

場 所 杉之浦市民センター大研修室

※ 欠席の人は委任状を提出してください

※ 午後から入浜池補足調査および小なきり浜の
観察会・清掃活動を実施します

PV の会 臨時総会・役員改選・自主研修会

PV の会では、昨年 12 月 3 日(土) 宮島市民センターに於いて、臨時総会を開催しました。
 会員総数 48 名中、出席会員 30 名、委任状提出者 6 名でした。

出席会員： 麻生 足立 岩崎 大西 小方ペア 小川 奥田 恩田 北野 黒木 小林ペア 佐渡
 佐藤(庸) 島 末原 兎谷 中道 野呂田 檜和田 前田 舛田 村上 森 山崎 山本(章) 横路
 吉崎 呼坂 以上 30 名

委任状提出者： 猪谷 川崎 五石 坂本 三次 山本(昌) 以上 6 名

環境省広島事務所： 武石自然保護官 関自然保護官

1. 臨時総会関連

(1) 9:15 全体打ち合わせ

環境省自然保護官挨拶

武石自然保護官挨拶

今年度は会員更新、新しい研修会実施、ミヤジマトンボ環境整備などに会員のご協力を頂きお礼を申し上げます。

ミヤジマトンボ生息地環境整備では柵が完成したので皆さんに見ていただくことを 1 つの目的として、来年、生息地の作業を予定していますのでご協力をお願いしたい。

関自然保護官挨拶

大高下ARが産休中は2人ですので協力をお願いします。

村上会長挨拶

・新幹事の選任： 2年経ち新たな幹事を選任します。出来るだけ新しい人を選任して欲しい。

・新しい企画・提案： 来年度の活動計画は新しい提案・ヒントを入れて行きたい。

・行事推進員： 9月3日の研修会結果より、全員参加の活動にしたい。幹事ではないが行事推進員を設けたい。

観察・環境整備・広報各部長

今年度の活動概況報告(詳細は省略)

(2) 10:00 部会打ち合わせ

- ・任期満了に伴う新幹事の選出
- ・行事推進員の導入について
- ・H29 年度活動計画立案の意見交換・提案

(3) 11:00 臨時幹事会

- ・任期満了に伴う新役員（幹事の中から互選）、監査員の選出

(4) 11:30 臨時総会

①岩崎副会長の進行にて総会成立（会員総数 48 名中、出席会員 30 名、委任状提出者 6 名）

②役員改選

総会前の臨時幹事会で選任のとおり全員一致で承認された。

「幹事」

・観察部会 小林 勲（部会長）

小川加代 北野孝幸 中道勉 舛田祐子
 村上光春 呼坂達夫、(新) 山本章伸

・環境整備部会 末原義秋（部会長）

川崎昭壽 佐藤庸夫、(新) 吉崎 俊 森 弘

・広報部会 岩崎義一（部会長）

足立清 前田忠瑛

「役員」

・会長 村上光春

・副会長 岩崎義一 末原義秋

・会計 舛田祐子

「監査」 足立清



臨時総会 全体打合せ

③観察部会からの報告

次年度の公募観察の選定として、紅葉谷～要害山コース、地御前神社観察会、古地図で巡るなど。

各コース3名程度、行事推進委員を選任しますので協力をお願いします。

④環境整備部会からの報告

登山清掃は陶晴賢探訪、**厳島神社前浜清掃活動**は8/6(日)を予定。清掃は入浜、こなきり浜以外も実施予定で幹事会にて決めます。行事推進委員は別途決めます。

⑤広報部会からの報告

3月1日号で、幹事の抱負を記載します。来年度は68号～71号を発行します。69号では在籍15年表彰3名の記事を載せます。宮島PV20周年(東京オリンピックの年)の行事推進委員を麻生会員が担当します。皆さんよりアイデアを募集予定です。

⑥その他

平日の清掃行事の継続の確認：次年度も今年度同様に観光客が少なく掃除し易いため進めることになりました。

(文・写真：麻生)

2. 広報部会主催の研修会

12:35～14:20

出席会員：麻生 足立 岩崎 大西 小方ペア
小川 奥田 北野 黒木 小林ペア 佐渡
佐藤(庸) 島 末原 兎谷 中道 野呂田
檜和田 前田 舛田 村上 森 山崎
山本(章) 横路 吉崎 呼坂 以上 29 名
環境省：武石自然保護官 関自然保護官

題目：「宮島以外の島々に行ってみた」

講師 会員 北野 孝幸

前置：最も小さい大陸はオーストラリア、最も大きな島はグリーンランド。日本も島！

本日は世界遺産「小笠原諸島 父島&母島満喫の旅」について発表します。

- ・2月に旅行。目的は「シマウツボ」の花
- ・ガラパゴスやハワイと同じ海洋島
- ・父島 人口 約2,000人、面積 約23.5km²
- ・東京の竹芝桟橋から980Kmの船旅26時間。かなり揺れ、深夜、突然の悲鳴で眼が醒めると、就寝時と数メートルも離れた場所にいた。入港した父島二見港は、天然の入り江。
- ・カメ(亀)煮なる料理あり
- ・三日月山、島南部と西部で見かけた花々と木、シマウツボほか39種を写真で紹介
- ・戦後持ち込まれたヤギにより植生変化
- ・戦争の爪あと(船や軍用トラックの残骸)
- ・鯨ウオッチング(フレークアップダイブ)
- ・兄島でのスキューバダイビング

感想は一度だけ満喫したい島とのこと。



シマウツボ



北野会員の発表に聴き入る会員

(文：麻生 写真：北野 麻生)

3. 年末懇親会 15:00～17:00

研修会の後、山村茶屋へ移動し、恒例の年末懇親会を行った。参加者は環境省2名、会員16名の合計18名。達人級の会員数名が手際よく炭を熾し牡蠣バーベキューで会話がスタート。牡蠣1缶とおでん、あなご井、オムライス、うどんなどに舌鼓と談笑で盛り上がる。観光客が珍しそうに眺めながら通り過ぎる。今年は僅かな黒字で会費に寄付された。

(文：麻生博史 写真：麻生)



「おでん」、おかわり OK!



人気の牡蠣バーベキュー

新役員・幹事の抱負

会長 村上 光春

引続き会長の役を担わせていただきます。よろしくお願い致します。これからも、安全とコンプライアンスをモットーに、宮島の自然と文化と歴史とを楽しみながら、遣り甲斐のあるボランティア活動を進めていきたいと思ひます。

副会長・広報部会長 岩崎 義一

引き続き副会長と広報部会長の役目を務めさせていただきますので、よろしくお願ひ致します。今回から新任の幹事の方が増え 共に新しい取り組みに期待したいと思ひます。

副会長・環境整備部会長 末原 義秋

これからも美しい宮島の自然と景観を守るために、環境整備や清掃活動に尽くして行きたいと思ひますのでよろしくお願ひ致します。

観察部会長 小林 颯

今期も幹事に選任され身の引き締まる思ひです。観光客は400万人を超えているそうです。世界遺産登録 20 周年を過ぎ、これから益々 PV の仕事大事に成ってくると思ひます。皆で頑張りましょう。

会計 舩田 祐子

引き続き会計を担当させていただきます。頑張ります！健康に留意し、行事の参加率 UP と何にでも好奇心を持って活動します。よろしくお願ひいたします。

監査員 足立 清

PV の会設立時からのメンバーで17年になります。今年も皆さんの活動が順調に進むように、協力したいと思ひています。

幹事 小川 加代

2017 年 1 月 7 日新春恒例弥山登山に数年ぶりに参加。上り紅葉谷ルートでは踏み固められた登山道が来訪者の多さを物語り、下り大元ルートでは薄暗い樹間に散ったアオバトの美しい羽が(残酷で)豊かな自然の営みを物語っていました。このような多面性こそが宮島の魅力であり PV 活動の魅力であると改めて思ひ至りました。次の 2 年間もどうぞよろしくお願ひします。

幹事 川崎 昭壽

体力的に環境整備作業の率先垂範は難しくなってきましたが、毎回参加することを目標に幹事の役目を果たしたいと思ひます。

幹事 北野 孝幸

世界遺産登録 20 周年が済み、一段落ではありますが、観光客の増加は続くことかと思ひます。ますます当会の活動は重要視されてくることかと思ひます。今期も引き続きではありますが幹事という大役を引き受けさせていただきます。以前にも増して会員の皆様のご協力を頂きながら邁進したいと思ひます。

幹事 佐藤 庸夫

神様・仏様、また歴史好きな者も、宮島を拠点のボランティアですので何人かいてもいいのではないかと、継続して幹事させていただきます。この会は楽しいです。

幹事 中道 勉

最近の会の運営は活気がなくマンネリ化し、少数の会員のみによる活動が見受けられる。よって今後の公募観察会などでは数名の会員が企画から実行するシステムを提案したい。また多くの会員が他のボランティアとの交流会に参加したり、個人の活動発表会ができる会にしたいものである。更に会員と一緒に宮島の年中行事を学習し、世界文化遺産の意義について考えてみたいものである。

幹事 前田 忠瑛

『みせん』の編集でお役に立ちたいと思ひますが、観察活動及び環境整備の現場活動にも半分以上参加を目標にしています。

幹事 森 弘

会員 2 年目、短い経験にもかかわらず、今回、幹事になりました。皆様のご指導・ご鞭撻、よろしくお願ひ致します。

幹事 山本 章伸

この度、新しく観察部会の幹事になりました。諸先輩がたの足手まといにならないようがんばりたいと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。

幹事 吉崎 俊

平成 22 年に掃除のお手伝い程度なら私でもできるだろうと、環境整備部会に所属して活動してきましたが、此の度幹事として活動することになりました。おりしも宮島が世界遺産登録して 20 周年の節目でもあり、何をどうすればよいのか五里霧中といったところですが、無理や無茶をしないで頑張りますので、サポート等よろしくお願ひします。

幹事 呼坂 達夫

子供たちに自然とふれあうきっかけを作り、特に海の生き物に触れて楽しく、面白く興味を持ってもらう活動をしたい。



宮島栈橋前広場で役員集合写真

「秋の紅葉と歴史の宮島ウオーク」 公募観察会(下見)

日 時：11月12日(土) 9:00～14:30

天 候：曇り

コース：誓真の釣井～要害山～山辺の古径～
もみじ歩道～あせび歩道～大元公園

参加者：猪谷 大西 北野 小林ペア 佐藤(庸)
末原 中道 野呂田 増田 村上 山崎
呼坂 山本(昌) 以上14名

公募観察会「秋の紅葉と歴史の宮島ウオーク」をどのように進めていくか……。藤棚の下で皆と話し合いある程度方向付けができたので出発する。一番先に向かったのは、厳島は飲み水が不足していることに気づいた僧の誓真が自ら水脈を求めて掘ったと言われている井戸。現在もこんこんと湧き出ている。それから要害山に登り町並みを眺める。昔は山辺の古路までが海であったこと、江戸時代に現在の町家通りができたこと、明治時代に商店街ができたことなどいろんな変遷の歴史を感じた。厳島合戦では陶晴賢が五重の塔付近に陣取って迎え撃つ毛利元就軍は要害山に立て籠もり、小道には空堀を掘って敵の侵入を防いだ(尾頸之堀ともいう)。それから山辺の古径のお地蔵さんや隠れキリシタン女人像を見た。隠居広場は展望良し。末原さんが出演した「ブラタモリ」の撮影現場で末原さんに当時の模様を説明していただく。12時前に奥



大鳥居遠景

紅葉谷で昼食とし、午後よりもみじ歩道、あせび歩道を紅葉を見ながら散策し大元公園へ午後2時到着。休憩所内で反省点などを話し合う。これで準備万端だ。

なお、公募観察会は当日(11/19)天候不良で中止となったが、来年度再度計画予定である。

(文・写真 小林 昴)



山辺の古径から

ほうらいいわ

蓬莱岩の名前の由来

今から2300年昔、秦の始皇帝^{しん しこうてい}は、世界のどこかに不老不死の薬草があり、仙人が住むと信じていた。やがて部下の徐福^{じょふく}にその薬草を探し求めて持ち帰るよう指示した。

まず徐福は大船団を組み東方に向けて船出したが、苦難の末に一行が着いたのは九州でした。しかし薬草はなかったので更に瀬戸内海に向かった。やがて厳島の先端に差し掛かった時、蜃気楼がたなびき、海中には光り輝くものがあつた。その自然現象を見た徐福は「何というまばゆいばかりの景色よ。これぞまさしく私が永年探し求めていた蓬莱山だ」と叫んだことから名付けられたものである。

(中道 勉)

自主観察会(6) 島外観察会 in 金輪島

日 時：11月26日(土) 8:50～14:50

天 候：晴れ

参加者：足立 猪谷 岩崎 大林 小方ペア 金山
北野 黒木 佐渡 末原 中道 野呂田 平田
檜和田 前田 村上 山崎 吉崎 以上19名

島外観察会は、宮島から一歩離れて近郊の島や山を訪ね、その土地の風土を体感しながら、また宮島を眺めながら、宮島の特徴をあらためて感じようというものです。

今回は金輪島です。金輪島は旧陸軍船舶部の島、また原爆被災者収容の島、今は造船所の島として知られていますが、実際にこの島を訪れた人は少ないようです。

集合場所は市営桟橋。正確な所在があまり知られていないようで、ここまでの道順に難渋した人もあったようです。

桟橋集合 8:50 出航 9:10 渡船料 220 円。連絡船から島を眺めると、高い送電線鉄塔、大きな工場クレーンそして緑の山腹に映えるハゼの紅葉が目につきます。

およそ 10 分で金輪島桟橋到着。桟橋は造船所の敷地内です。今日は休日(土)のためか、造船所特有の工場騒音は小さいようです。

守衛さんに目礼しながら工場敷地の縁を通り抜け、まず山越え道を通って島を東から西へ横断しました。この山道は巾約 3m のコンクリート舗装で、両脇の桜並木は雑木に覆われ勢いがありません。道路際はイノシシがしっかりと掘り返しています。藪の中にはカクレミノやヤツデそしてムベ、竹林など。ここは里山の風情です。ゆっくり歩いて 20 分、



峠道で勉強会

西海岸は砂浜の自然海岸です。ツルナ、ハマ



自然海岸

ダイコン、ノジグクなどの海浜植物やアマモの切れ葉が見られます。

漂着ゴミはきわめて少なく、宮島であれば見慣れたカキパイプはほとんどありません



ノジグク

でした。そのかわり砂浜にイノシシの足跡が残されていました。宮島が遠望されます。安芸の小富士(似島)の奥に、くっきりとうら寝観音像がシルエットに浮びます。岩船岳も見えます。夕日時に見るときっと素晴らしいでしょうね。

ここから荒れた山道を通って、小山を越えると集落に出ます。途中、雑草の中にお地藏さんを見かけました。集落は 10 軒程度でほとんどが空き家か廃屋ですが、なかに 1 軒ライブハウスがありました。週末などに賑わっているそうです。この集落と桟橋とを直接つなぐトンネルがあります。20 年前バブルの時代にリゾート計画の一環で造られたそうです。

今回は、このトンネルを通らず、左手の山道を上りました。すぐに、約 500 人の霊を祀る原爆慰霊碑です。先ほどの西海岸で摘んだ野路菊を献花し、大林会員が奏でる草笛の鎮魂歌に合わせて黙と



原爆慰霊碑

うを捧げました。



自動車運搬船と黄金山

送電線鉄塔の保守用の山道はなかなかの急坂です。高齢者には堪えました。2 つ目の鉄塔の下で昼食です。ここからは、広島市街地東部の宇品がよく見えます。島嶼部への連絡船や自動車運搬船、黄金山など絶景です。

昼食後、再び急坂を下ると北海岸にでました。ここは島一番の集落ですが、前述の集落と同様に数軒を除いて空き家か廃屋です。果樹畑の柿や無花果の徒長枝(注)が目立ちます。海岸道路を右手にとり栈橋へ。右手の花崗岩の岩壁に防空壕の跡が所々見られます。旧陸軍の島の名残です。戦時中にはおよそ 60 ヶ所あったそうです。



防空壕跡

途中、島で唯一と云われた商店が

あります。自販機は稼働していますが、店は閉じられたままでした。左手に造船所を見ながらゆっくり歩いて栈橋到着。金輪島の北半分を一周しました。ここで暫く休憩。



遠くの宮島を背景に記念写真

金輪島栈橋発 14:30、すぐに宇品着。天気にも恵まれ、行事は無事終了しました。

本日は、ゆっくりとした所でゆっくりした時間を持ちました。

なお、金輪島観察会の下見は、11 月 20 日、金山 北野 小林ペア 村上 呼坂各会員の 6 名で実施しました。

(注): 徒長枝とは園芸専門用語で、樹木の幹や太い枝から上方に向かって真っ直ぐに長く太く伸びる枝を指す。

(文: 村上 光春 写真: 前田 吉崎)

金輪島観察会に参加して

投稿 吉崎 俊

金輪島へは写真の小さな連絡船で渡りました。船賃は出発前に船長が直接現金を徴収していました。昔、私の故郷で 10 円渡船としてニュースになった町営の渡船でも切符を購入して乗船していたのに、今でも現金での徴収があることに驚きました。



連絡船(宇品市営栈橋～金輪島)

投稿 前田 忠瑛

金輪島の姿は広島湾の奥深くに畳み込まれてその存在に気付く人は少ないと思います。「全景写真を」との村上会長の要望に応えるため日浦山から撮った写真を取り出しました。



中央が金輪島 上が似島 (日浦山から)

弥山登山道清掃作業

日 時：12月16日 9:00～15:00

天 候：うす曇り一時雪

場 所：宮島ロープウェイ獅子岩駅～弥山山頂～仁王門～大聖院

参加者：大林 小方(嗣) 川崎 北野 黒木 末原
前田 増田 村上 森 吉崎 以上 11 名

前日の天気予報では、午前中が雪となっていましたので、清掃作業は延期だと思って何も準備をせずにいました。当日も朝起きるとうっすらと雪景色、これは延期確実だと思っていたら、朝 6 時の天気予報は降水確率 20～30%、気持ちを切り替えて慌てて準備をし、家を出ました。

こんな天気で何人の人が参加するのだろうと思いつつ宮島栈橋の改札を出ると、集合場所はいつもの藤棚から栈橋 2 階の待合室に変更されていて、既に数人の方が来られていました。今回の参加者は 11 名、平日のこの天気で昨年の 14 名に近い人数が集まり、皆さんの宮島 PV にかける熱意を感じました。

宮島ロープウェイのゴンドラから見る景色はちらほらと雪化粧、獅子岩駅の外は 2～3cm の積もった雪でした。さっそく雪だるまを作り、弥山をバックに集合記念写真を取って、2 班に分かれて清掃作業に入りました。山道の踏みつけられたシャーベット状の雪かき、道の凹んだ所の溜まった雪解け水の排水、側溝の土や枯れ葉の除去と、いつもとちょっと違った作業になりました。水溜り具合から、道の真ん中が大きく掘れていることに初めて気付かされました。

こんな日でも弥山を訪れる方は結構おられ、通りすがりに感謝やねぎらいの言葉をかけてくださり、心が温まる思いになりました。

弥山山頂には 12 時少し前に着き、昼食を取り始めましたが、見る見る西の大竹方面の景色が白くかすみだし、霞が段々と近づいてきて、雪がちらほら舞う状態になりました。午後は、雪の中の作業かと思いましたが、すぐに止み、青空も現れて、一安心。昼食を早くすませ、午後の作業へ。山頂からは、大日堂へは下りず、足元の安全な弥山本堂へ引き返し、仁王門へ向かい、作業を始めました。

大聖院コースの山道清掃は、雪は既に解け、

濡れ落ち葉状態でしたので、水溜りと道を横切る水路を中心に堆積物の除去を行いました。

大聖院コースの登山道入り口で解散しましたが、村上会長から今年 1 年間の無事故・無違反での活動のお礼と来年の活動への参加要請がありました。皆様、お疲れ様でした。



R.W 獅子岩駅前で集合記念写真

(文：森 弘 写真：末原 義秋)

弥山清掃登山

冠雪の連山近く迫り来し
法螺の音や初冠雪の弥山より
初雪に金髪娘のこおど小躍り
山頂に愛想ふりまき雪だるま
裸木に色を尽してタマミズキ
黒木隆信

新春弥山登山

日 時：1月7日(土) 9:00～15:00

天 候：曇り

コース：紅葉谷～弥山山頂～仁王門～大聖院
野鳥観察班は～大元公園 16:10 着

参加者：麻生 足立 猪谷 岩崎 大西 小川
小方(嗣) 小林(颯) 佐渡 佐藤 中道 野呂田
前田 増田 森 横路 吉崎 以上 17 名

今年最初の行事となる恒例「新春弥山登山」に精鋭 17 名が集まりました。年頭の挨拶を交わし今年の PV 活動の安全を誓い、さっそく出発。リーダーの佐藤会員を先頭に解説を聞きながら例年通り紅葉谷道をゆったり進みます。お正月から続く穏やかな天候の中、こ

の日は観光客よりも登山姿が目立ちます。

PV の行事では年間に何十回と宮島に来ているにも拘らず、意外と弥山に登ることが少ない。以前は「岩船岳登山が PV の証」と言っていたものが、この新春弥山登山が自分の体力の定点観測になるものだと思っています。

途中元気の良い己斐ソフトボール少年チームの団に軽々と追い抜かれ、今年もヤブツバキの花は少ないと思いつつ天然橋へ。ここから尾根に到るまでミミズバイ自生限界生育の調査を小方会員の指導のもと新しいメンバーの協力を得て行いました。今年で 4 年目、当初「宮島弥山原始林植物マップ」では 340m であった最高地点が、年々幼木の発見により更に上に NO1 は大黒天を過ぎ尾根下のものとなっています。(詳細は下表参照下さい)

【ミミズバイ】 (測定 岩崎)				
番号	標高(m)	樹高(cm)	幹周り(cm)	場 所
①	385	126	4.9	大黒天上(左)
②	370	76	3.9	15号堰堤上(右)
③	350	139	5.9	大岩下(右)
④	不明、発見できず			
⑤	320	168	7.0	天然橋(右)
①、②は標高を修正した。				
【くぐり岩の間隔】 190cm (測定 岩崎)				

ようやく獅子岩駅からの合流地点の尾根に辿り着き一休み後、旧道を通り「二十一丁町石」も倒木の下で健在であることを確かめ、霊火堂前広場へ到着。「錫杖の梅」も順調な様子に見られます。三鬼堂では佐藤会員の解説ののち、全員神道形式で三鬼大権現に参拝。毘沙門堂址では「八臂弁財天」の石仏の解説が中道会員からあり、手作り冊子「弥山の七不思議 植物の語源 NO20」を頂戴しました。

「くぐり岩」は昨年秋の鳥取地震の影響を心配したが 190 cm とほぼ同じ測定結果でした。

12 時 20 分ゆっくり目で山頂到着、予想通り展望台の休憩階は座るところもないくらい多くの登山者で賑わっていました。風もなく暖かいものの少し曇ってきていて、まだ今年は雪が少ないのか芸北の山も霞んでいます。

昼食後、山頂広場にてオーストラリア・ブリスベンからの少年にシャッターを押してもらい新春登山の集合写真となりました。

午後 1 時下山開始、仁王門前では丁度今日 7 日の「七草がゆ」にちなみ「二十四節気」

の話の小方会員から聞きました。ここで大西会員率いる野鳥観察班 5 名は大元道へと別れ、本隊は大聖院堂へ道を下ります。予定通り午



集合写真

後 3 時丁度到大聖院下に到着、「半寿」(八十一歳)を迎えた足立会員も見事長丁場を完歩され、無事今年初めの行事を終えることができました。

PV 会員は多士済々、多くの知識と新情報を獲得できた有意義な新春登山でありました。

今年は新しい幹事さんが加わり、新しい発想・取り組みに期待したいものです。

以下は、大西会員からの報告と写真です。「野鳥見たさに申し出た大元コース下山がリーダーに了解され、大きなお土産が二つ出来ました。一つは、焼山(通称)に初めて登り、絶景を堪能することができたこと。もう一つは、体長 33cm 中型の鳥、アオバトの羽を拾うことができたことです。滅多に観察できない山奥にいる鳥です。何かに襲われて羽毛の

みが散らばっていたのです。アオバト特有のモスグリーンの羽色。更にエンジの小さな羽を僅か



アオバト(2017.1.7 大元コース)

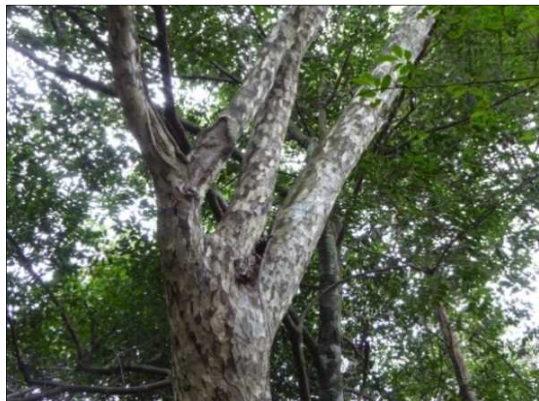
見つけることが出来ました。」

《追記》長年の懸案の「皇太子殿下御展望跡」二十四丁町石の土台の隙間は 12 月の工事でコンクリ補修が施されており、崩落の恐れがなくなり一安心しました。

(文 : 岩崎 義一 写真 : 前田 大西)

弥山の森から クイズ2題

投稿 小川 加代



今年の弥山新春登山で撮った木の写真です。幹のまだら模様は樹皮が小片となって剥がれた跡で、小片が根元にたくさん落ちていました。

【Q1】落ちていた小片と幹のまだら模様は、一致するでしょうか？

【Q2】写真の中に宮島でよく見る動物がいます。その動物は何でしょう？

【A1】小片と一致するまだら模様さがしは、まるでジグソーパズル。登山途中の短時間では答が出ませんでした。

【A2】シカ。幹が耳や顔に見え、更に角や上に伸ばした前肢があるようにも。木の種名「カゴノキ(鹿子の木)」は鹿の子模様が由来ですが、これは「大鹿の木」ですね。

自主観察会(8) 野鳥観察(宮島)

日 時：2月4日(土) 9:00～14:10

天 候：晴れ

場 所：要害山～うぐいす歩道～紅葉谷公園
～もみじ歩道～あせび歩道～大元公園

参加者：大西 小川 奥田 川崎 北野 黒木
小林(勅) 末原 中道 檜和田 佛崎 前田
増田 森 横路 吉崎 呼坂 以上 17 名

日本野鳥の会広島支部：吉岡御夫妻

冬鳥の観察会。この度は長く避けてきた「山の鳥観察」に挑戦しました。場所は本会のフィールドである宮島です。野鳥の会の吉岡さん御夫妻にご協力いただきました。

雑踏を避けてうぐいす歩道など山際を歩き、奥紅葉谷で昼食をした後、大元公園まで観察を続けました。海岸でカモ類なども見ました。トピックスは3つ。

1. 特に出会いを求めている鳥、ルリビタキ。

なかなか会えず、今日はおかしい、と思った途端に、なんと綺麗な瑠璃色の鳥がちらっと姿を現しました。その時には見ることができた人と、残念ながら見られなかった人と。しかし、その後4回もの出会いに恵まれました。こんなことは初めてです。ルリビタキの姿の美しさ、可愛さ、可憐さを、しっかりとしかも全員で楽しむことが出来ました。



ルリビタキ (大西)

2. 宮島島内では、必ずと言ってよいほど見ることが出来るコゲラ。開始時から、あちらこちらでコツコツコツ！と木をつつく音に気づいていましたが、そのうち目の前で、我々の眼差しを気にせず、夢中に採餌しているコゲラを見かけました。日本



コゲラ (北野)

で一番小さいキツツキです。嘴で木をつつく力とそのリズムには、いつも驚かされます。写真を撮るとその頭はぶれて写ることが多いです。さて、そのキツツキが、カタカタと、カーブミラーに体当たりしていました。ジョウビタキが、侵入者と間違えてミラーに映った我が姿を攻撃するのは良く知られていますが、コゲラも同様のことをするとは！！！！驚きでした。



カーブミラーに映った自身の姿と格闘中のコゲラ (吉岡透さん撮影)

3. 写真判定。動きの速い小鳥たちの同定は、時にとて難なことがあります。距離が遠くて、その小さな姿の一部(一方方向)しか見られないことも多いのです。そんな時にと

でも信頼できるのが、写真に残った姿です。その瞬間をとらえられた姿を拡大してじっくり観察できるのです。この度は、その写真判定で、2種を確認できました。

一つは、ノスリ。タカ類を2度観察していましたが、そのいずれも遠くて、いわゆる空抜け状態の逆光で見るため、色や翼の模様などがはっきり確認し辛かったのです。しかし、写真はノスリの特徴をはっきり捉えていました。腹帯が写っていたし、高い木々の間を一瞬カラスと絡みながらの姿を捉えていました。

もう一つは、クイタダキ。この鳥がいても良い場所だけど、マツやモミの木の間を探している時に枝越しに見えた鳥影をとらえた写真をその場で見せて頂きましたが、判断できずに謎の鳥としていました。後で拡大された写真により、クイタダキに間違いなしと同定できました。



小さなミソサザイの姿に感動 (前田)

写真は凄い。姿を手振れなしに瞬時に撮る技術があってこそ。お蔭様で、この探鳥会で出会った鳥はすべて解明されました。気分もすっきり！ミソサザイのこともアトリの「水浴び」のこともいろいろありましたね。皆さま、思い出してくださいね。参加された皆さまと、鳥の魅力を共有できたことが、何よりの収穫でした。また山の鳥観察に挑戦してみたことは、新しい体験でした。

参加された皆さま、そして吉岡さんご夫妻、有難うございました。

観察できた鳥は、上記のほかに、ヒドリガモ、オナガガモ、スズガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、イソヒヨドリ、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ス

ズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、アオジがあり、合計 31 種でした。(文：大西 順子)

ミヤジマトンボ生息地環境整備

日 時：2月7日(土) 9:00～16:00

天 候：晴れ

参加者：岩崎 大林 恩田 五石 小林(昴) 末原 中道 前田 森 横路 吉崎 呼坂 以上 12 名

ミヤジマトンボ生息地 B 箇所及び B'箇所の環境整備作業と、仮設水路の状況調査をミヤジマトンボ保護管理連絡協議会と、PV 会員 12 名の計 25 名で実施しました。

作業は、協議会メンバーが B'箇所の獣害柵の補修作業を、PV が 2 箇所の土のう袋の撤去と海岸のゴミ拾い作業を実施し 520Kg のゴミを収集しました。また昼食時には坂本会長より生息地の環境状況と、昨年整備した仮設水路の設置経過について説明がありました。



坂本会長の説明を聴く会員たち

(文：末原 義秋 写真：前田 忠瑛)

◇ 編 集 後 記 ◇

会員の皆様、今号にも積極的に参加していただき有難うございました。まもなく春の活動が始まります。次号も賑やかな紙面になるよう、ご協力をお願い致します。(前田)

瀬戸内海国立公園 宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455